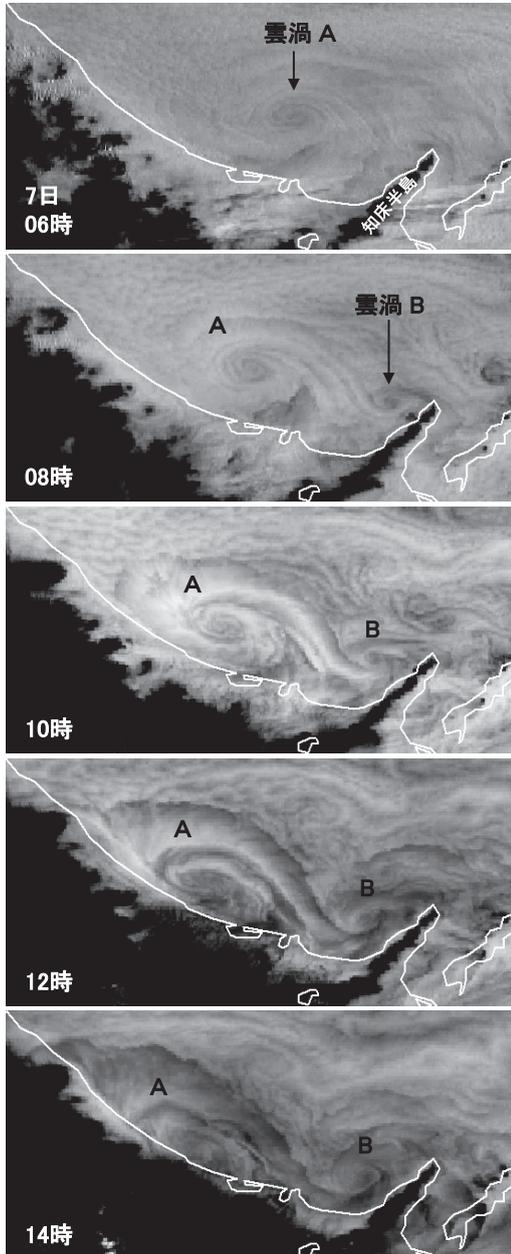


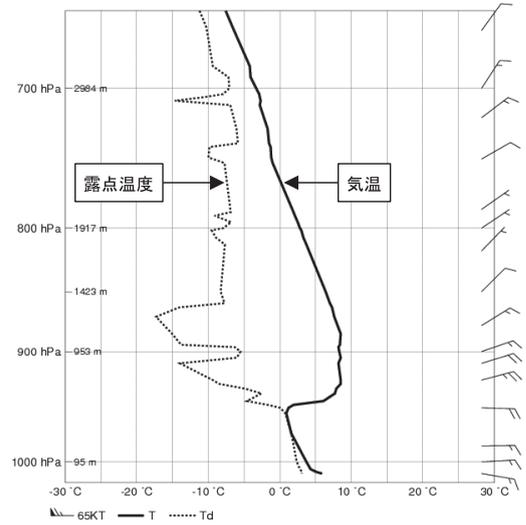


今月のひまわり画像—2022年6月

網走沖に出現した雲渦



第1図 2022年6月7日06時～14時(日本時間)の2時間毎の網走沖における可視画像。



第2図 7日09時の稚内のエマグラム。

2022年6月5日から8日にかけて、網走沖ではオホーツク海に中心を持つ高気圧の影響で、下層雲が広がっていた。第1図は、6月7日06時～14時の2時間毎の可視画像で、網走沖に明瞭な雲渦Aが確認できる。この渦は、遡ると、赤外画像では確認できなかったものの、赤外差分画像(図略)では、前日夜から知床半島の北端の西でやや不明瞭ながら確認でき、夜が明けて可視画像が利用できる同日06時頃から明瞭となったものである。‘渦巻き’という呼び方が相応しいこの雲渦Aは、反時計回りにゆっくりと回転しながら西へ進み、同日14時頃には不明瞭となった。なお、別の雲渦Bが、08時には知床半島の北端の西で発生して、西へ進んでいた。

第2図は、同日09時の稚内のエマグラムである。高度約500～600m付近に顕著な逆転層が存在し、逆転層の下では東寄りの風が吹いて湿潤で、下層雲は逆転層の下に存在していることを示している。逆転層の高度が低いため、湿潤な空気の流れは知床半島で遮られて流れが変わり、風下の網走沖で渦巻きの様に可視化されたものと考えられる。

(札幌管区気象台気象防災部予報課 西 峰雄)